



神奈川県

KANAGAWA

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」
神奈川県優秀作文集

水について考える

令和7年7月

「全日本中学生水の作文コンクール」について

「全日本中学生水の作文コンクール」は、次代を担う中学生の皆さんに、日常生活での体験あるいはご両親や先生方から学び聞いた話をもとに、水について考えていただくという趣旨で、昭和54年から「水の週間」の行事の一環として実施しています。

神奈川県では、平成19年度から新たに水源環境保全・再生施策の取組みがスタートしたことを機として、平成20年度から神奈川県独自の賞として水源環境賞を創設しました。

神奈川県内では235編の応募があり、神奈川県表彰として最優秀賞1編、優秀賞4編、入選3編及び水源環境賞3編を選定しました。

この11編について、このたび優秀作文集としてとりまとめました。いずれも、生活や学校での体験を通して、水について理解を深め、水を大切にしていこうとする中学生の皆さんの気持ちがよく表現されています。ぜひご一読ください。

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」は、次のとおり行われました。

- 1 応募要領
 - ①テーマ…「水について考える」（題名は自由）
 - ②対象…令和7年度に神奈川県内在学の中学生
 - ③原稿枚数…400字詰原稿用紙4枚以内で日本語により表記された個人作品
 - ④あて先…神奈川県内の場合、神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
 - ⑤募集期間…令和7年3月3日～令和7年5月9日（必着）
 - ⑥著作権等…○応募作品の著作権は水循環政策本部、国土交通省及び神奈川県に帰属する。
○応募作品は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の返却は行わない。

2 神奈川県内

応募状況

応募 学校数	応募 総数	学年別（編）		
		1年	2年	3年
11校	235編	10	18	207

3 審査

- (1) 都道府県審査 応募作品について神奈川県が審査を行い、神奈川県表彰として最優秀賞1編、優秀賞4編、入選3編及び水源環境賞3編を選定。最優秀賞及び優秀賞の計5編については、中央審査対象作文として国土交通省に推薦。
- (2) 中央審査 都道府県の地方審査を経た作文を対象に、中央審査会（国土交通省主催）で最優秀賞1編・優秀賞9編・入選30編を選定した。

「水の日」及び「水の週間」について

昭和52年5月31日 閣議了解

水資源の有限性、水の貴重さ及び水資源開発の重要性について国民の関心を高め、理解を深めるため、「水の日」を設ける。

「水の日」は毎年8月1日とし、この日を初日とする一週間を「水の週間」として、この週間において、ポスターの掲示、講演会の開催等の行事を全国的に実施するものとする。

上記の行事は、地方公共団体その他の関係団体の緊密な協力を得て行うものとする。

水循環基本法（平成26年法律第16号）

第十条 国民の間に広く健全な水循環の重要性についての理解と関心を深めるようにするため、水の日を設ける。

2 水の日は、八月一日とする。

3 国及び地方公共団体は、水の日趣旨にふさわしい事業を実施するように努めなければならない。

目次

最優秀賞

河童が教えてくれた水のこと 藤井彩音
横浜市立生麦中学校三年

優秀賞

水の汚れと地球環境について 遠藤凛
日本大学藤沢中学校一年
水でつながる大きな家族の一員として 風間修羽
逗子開成中学校一年
なくてはならないもの 加藤 權
逗子開成中学校二年
森と水、そして私たち 鈴木康太
横浜市立篠原中学校三年

入選

水道水と働く人々 丘山麻亜子
横浜市立篠原中学校三年
水を変えるもの 白鳥修一朗
横浜市立篠原中学校三年
水って何色? 矢部宮瑚
横浜市立篠原中学校三年

水源環境賞

森と水の大切さ 田邊和奏
横浜市立篠原中学校三年
使命 松本芽
横浜市立篠原中学校三年
山の水を守る理由 三島千知
横浜市立篠原中学校三年

河童が教えてくれた水のこと

横浜市立生麦中学校

三年 藤井 彩音

バスで鶴見川を渡る時、私はいつも小さい頃に聞いた昔話を思い出します。

昔、鶴見川には九十九匹の河童が住んでいた。今の鶴見川は静かで川面にはカヌーがすすい進み、川辺では人々が散歩やジョギングを楽しんでいます。コンクリートで護岸が固められた典型的な都市型河川でも河童が潜んでいるように見えません。でも、橋の下や岸辺の草むらを見ていると、「もしかして…」と想像してしまいます。

昔の鶴見川は「暴れ川」と呼ばれ、何度も洪水を起こしていました。川幅は狭く、流れの速いところと淀みが交互に続く自然の川で、その九十九の淀みに、一匹ずつ河童が住んでいたと伝えられています。魚介類も豊富で

河童たちにとって暮らしやすい場所だったのでしょう。河童には、子どもをさらうなど恐ろしい話もありますが、溺れた人を助けたという言い伝えもあります。「平六」という名前の河童がいたずらのお詫びに手紙を書いた話からは、河童が地元の人々に親しまれていたことがうかがえます。

私は、鶴見川のことをもっと知りたくなり、小机にある鶴見川流域センターに行きました。そこで、昔の鶴見川がどれほど暴れ川だったかを学びました。昭和の終わりまで何度も氾濫し、人々は苦しめられてきたのです。二階にある立体地図では、赤青のメガネをかけると地形が浮かび上がって見えます。鶴見は台地が臨海部までせまり、浸食された谷と丘が入り混じる地形です。川沿いの市街地は平たんで、高低差が少なく、これでは洪水に弱いことが一目で分かりました。

川幅を広げたり、堤防を整備したり、川底をさらったりと、様々な工夫が行われ、二〇〇三年には新横浜に多目的遊水地が完成しました。これにより洪水のリスクがぐんと減りました。この整備には流域の町が長年にわたって協力し合ってきたそうです。片側だけ堤防を高くして

も、反対側の被害が増えるため、全体で支え合う必要があったのです。

私も実際に新横浜公園の遊水地を歩いてみました。その広さに驚きながら、「ここが大水害を防ぐために造られた場所なのか」と思うと、先人たちの知恵と努力に感動しました。特に、地域の人々が協力して川を守ってきたという話を聞いて、私はふと考えました。

もしかしたら、昔の河童たちも水を守っていたのではないか？溺れる人を助けたり、いたずらで水の怖さを伝えたり、そんな河童たちは水との向き合い方を人々に伝える『水の番人』のような存在だったのかもしれない。

現在も水害はなくなったわけではありません。温暖化の影響で「ゲリラ豪雨」や「異常気象」が頻発しています。水道管の老朽化による道路の冠水や陥没もニュースでよく目にします。数年前には、隣の多摩川で「内水氾濫」という新しい形の洪水が起きました。高層マンションが立並ぶ街が浸水している様子をテレビで見て、とても驚きました。買い物で行ったことのある場所だったからです。

もし、今も河童たちが居たら、自然と調和して生きる

この大切さを伝えてくれていたと思います。私たちは今こそ、環境とどのように向き合うのかを考えるべきです。

かつて河童が住んでいたという鶴見川。暴れ川だったその流れは、人々の努力によって穏やかになりました。そして私たちは予測できない気候変動に備え、改めて知恵と工夫を重ねていかなければなりません。

バスで鶴見川を渡るたびに、橋の下や岸辺の影から河童がひょっこり顔を出し「自然と共存せよ」と警告してくれる気がします。私たちは温暖化の現実に向き合い、行動しなければなりません。

水の汚れと地球環境について

日本大学藤沢中学校

一年 遠藤 凛

私たちのくらしに欠かせない水は、地球上のあらゆるところに存在している。私たちは毎日、料理や洗濯、入浴など様々な場面で水を使い、その恩恵を当たり前のように受けている。しかし最近、その大切な水が汚れ、地球全体の環境に大きな影響を与えていることが問題となっている。家庭や工場から流れる排水、農薬を使った農地から流れる水、そして海に捨てられるゴミなど、様々な原因で水は汚れている。私は学校の授業や本で調べるうちに、水を汚すことが生き物の命をおびやかす、私たちの未来にも関わる重大な問題であることを学んだ。この作文では暮らしの中で感じたことや、調べたことをもとに、水の汚れと地球環境のつながりについて考え、自分のできることを見つけていきたいと思う。

私たちの生活の中には、水を汚してしまう原因がたくさんある。たとえば、台所で油を流してしまったり、洗剤をたくさん使ったりすると、汚れた水が川や海に流れていく。また、工場からの排水や農薬を使った畑の水も、自然の水を汚してしまふ。こうした汚れた水は、魚や水鳥などの生き物たちに悪い影響を与え、命を奪ってしまふこともある。水の中の酸素が減ることで、生き物が住みにくい環境になり、川や海の自然なバランスも崩れてしまふ。さらに、汚れた水が海に流れ込むと、海の生き物だけでなく、最終的には人間のくらしにも影響を与える。海の魚を食べる私たちにとって、海の水の汚れは他人ごとではない。海のプラスチックゴミを食べてしまった魚を、私たちは口にできる可能性もある。水をきれいに保つことは、生き物だけでなく、自分たちの健康や未来を守ることもつながる。

私は、水を汚す原因を知り、それを減らす努力がとても大切だと感じた。

たとえば、洗剤を使いすぎないようにしたり、油を流さずに処理したり、ゴミを川や海に捨てないことを心がけるだけでも、大きな一歩になると思う。学校でも、節

水や水質保護について学ぶ機会を増やし、みんなで水の大切さについて考える時間を持つことが必要だと思った。

そして、未来の地球を守るために、自分自身も行動できる人になりたいと思う。

また、世界にはきれいな水が手に入らず、病気に苦しんでいる人たちもたくさんいることも知った。日本にいとると、水道の水が当たり前に使えるが、それはとても恵まれたことなのだ。ある資料によると、世界では約二十億人もの人々が安全な飲み水を確保できていないという。だからこそ、私たちは水へのありがたみを忘れずに水を汚さず、大切に使うことを意識していかなければならないと思った。

水は、すべての生き物にとって欠かせない命の源である。

私たち一人一人の行動が水を汚す原因にもなり、逆に水を守る力にもなることを、私は調べ学習や体験を通して学んだ。水の汚れは地球全体の環境問題と深くつながっており、放っておけば私たち自身の未来も危うくなる。だからこそ、日々の生活の中で少しずつでも水を大切に使い、汚さない努力を続けることが必要だと強く思う。これからは、自分にできる小さなことを積み重ねながら、周りの人たちにも水を大切にすることを意識を広げていきたい。

水でつながる大きな家族の一員として

逗子開成中学校

一年 風間 修羽

僕は、一昨年の秋の草刈りから始まって、去年一年、南アルプスの麓にある田んぼで米作りをする機会を得ました。その田んぼは、棚田の一番上の場所にあつて、川の取水口の開け閉めや、取水口に落ち葉や木が詰まった掃除をするのも、その田んぼ仕事の一つでした。

田んぼから取水口までの道のりは、珍しい山野草などが生えていたり、風向きによっては獣の匂いがしたりするような森の小道でした。地元の人が、「ここは熊が出るよ。」と言っていたので、少し緊張しながら、父や兄と大きめの声で話しながら向かうのですが、この大きな森全体から水を分けてもらいにいくんだという気持ち

して、とても特別な仕事のように感じられ、僕の好きな仕事の一つでした。

川から引かれてきた水は、とても冷たいのですが、田んぼに入るとどんどんぬるくなっていきます。場所によって、水の温度も違って、その温度の違いによって稲の生育の差が見えたり、生えている草の種類が違ったり、集まっている生き物が違ったりするのも興味深かったです。

この田んぼに引かれている水がどこから来るのかが知りたくなり調べる内に、流域地図というものがあることを知りました。流域地図というのは、河川に流れ込む水の降り集まる地域を表した地図です。その地図によると田んぼに引かれている水は、富士川水系であるということがわかりました。流域という視点で土地を見ると、山の尾根が、流域の境になっていることがわかりました。

僕が、家族と一昨年登った仙丈ヶ岳の山頂に降った雨は、東側なら富士川に流れ、西側なら、天竜川に流れる。大地の凹凸が水の流れを決めていて、尾根に囲われた区域が、まるで一つの水でつながった大きな家族のように

感じられました。

僕たちの田んぼを潤してくれた水は、水路を通過して、隣の田んぼに流れ込みます。その水はまた、その次の田んぼに流れ込み、そうして順番に全ての田んぼが潤されていきます。稲作というのも、水の流れで繋がった家族みんなの命の糧を生み続ける営みなんだということがわかりました。

僕が暮らしている地域は、流域の視点から見ると下流域にあります。そこには住宅やビルが立ち並び、たくさんの方が住んでいます。田畑はそれほど多くありません。飲み水も食べ物も少し離れた地域から届けてもらうことでまかなわれています。けれども、水でつながった家族の一員であることには変わりありません。

上流に住み、今まで水源を守ってくれた人たちの高齢化が進んでいます。命を支える水を共有する大きな家族として、下流の人と上流の人が一緒に豊かな水を守り続ける事ができる仕組みを作っていきたいです。

暑い中での、田んぼの中や土手の草取りは大変でしたが、よかったのは、時折水の上をとっても涼しい風が吹いてくること、そして何より蚊がいなかったことです。た

くさん飛んでいたトンボが食べてくれたのではないかと思います。そして、秋の収穫時に、稲穂が波のように風に揺れ、その上をたくさん飛んでいる光景を見た時、古事記で日本の国のことを「豊葦原の瑞穂の国」と呼んでいたたり、本州のことをトンボの姿をイメージして「秋津島」と呼んでいたたりするのは、こういう光景が全国に広がっていたからなんだなと思いました。そして純粋に美しいなと思いました。

今私たちが豊かな水を使えるのは先人たちの努力のおかげです。水でつながる大家族の一員として、先人たちの思いを引き継ぎ、未来へ豊かな環境を届けることは、今を生きる私たち一人一人の使命ではないでしょうか。

なくてはならないもの

逗子開成中学校

二年 加藤 權

台風や集中豪雨などの水災害によって、日本だけではなく世界中の様々な地域でも大雨による被害が起きていたニュースを見たことがあります。僕が住んでいる神奈川県でも、これまでに経験のしたことのないような大雨が降り続き、広い範囲での被害が出ていました。テレビでその様子を見たり、家の中にも聞こえる激しい雨や風の音に、小学生だった僕はとても怖く、不安な気持ちになったのを覚えています。

雨が降らなければ水不足が起きて困るし、逆に降りすぎれば洪水になり、人々の生活に影響を及ぼしてしまう。でも、洪水の水はそのまま生活に使えないというのも不思議です。

そんな時に僕が知ったのが「ダム」の働きです。ダム

はただ水を貯めておく場所だと思っていただけ、実は、洪水を防ぐために水を一時的にためて、少しずつ流すようにコントロールしてくれていると聞きました。また、雨が少ない時には、その蓄えた水を使って、水不足にならないようにしてくれているのです。ダムは僕たちの生活の安心を支えてくれる、大切な存在なのだと思います。

普段、蛇口をひねれば水が出て、手を洗ったり、お風呂に入ったたり、料理にも使ったり、当たり前のように使っています。そんな便利な生活ができるのも、昔の人たちが知恵をしぼって水を使いやすくしてくれたお陰なのだ、改めて気付かされました。水について深く考えることがありませんでした。感謝しなくてはなりません。僕の家は海のそばにありますが、近くに川も流れています。この川も定期的に清掃されているようで、人々が、水を大切にしていることが伝わってきます。

昔はきれいで澄んでいた川も、便利な生活の中で少しずつ汚れ壊されていっています。

人々の生活を支えてきた水が人間の手によって壊されていくのは、とても残念なことです。人の意識を変える

ことで、元の自然に戻すことは出来るのでしょうか。

洪水が起きるのも、人間が便利さを求めて自然を変えてきたことが原因の一つだと知りました。実際に、住宅が増えて、緑や木、公園が少なくなっているようにも感じます。これに加えて、排気ガスや地球温暖化も関係しているのかもしれませんが。水と人間と自然の関係は、とても複雑で難しい問題です。頭では理解できても、「じゃあ自分に何が出来るのか」と考えると、すぐには答えが出せません。でも、まずは「水を大切にすること」「水を汚さないこと」から始めていくのが、今の僕に出来ることだと思います。

昔の人たちが作ってくれた暮らしやすい社会を、今度僕たちが守っていく時代なのかもしれません。水と共に生きる未来のために、自分に出来ることを探していきたいです。

森と水、そして私たち

横浜市立篠原中学校

三年 鈴木 康太

もしも家の水道の元栓が壊れたらどうしますか。元栓は水道の制御装置の役割を担っています。つまり、元栓が壊れると、家の蛇口などから出る水の量を制御できなくなってしまうのです。そして、その状態で家のすべての蛇口から水が常に出てきたら、どうなると思いますか。排水が追いつく程度なら問題なくはないと思います。

もし排水が追いつかないくらいの水が出てきたら、どうなってしまおうのでしょうか。

そのような状態になってしまうと、家の様々な場所から水が溢れ、部屋は水浸しになり、部屋にある紙や電子機器を使えない状態になってしまいます。そうなるとうと、部屋であれば水を外に出して床を拭いたり、紙であれば乾かしたり、電子機器であれば修理に出したりし

なければならず、手間や費用がかかり、私たちに負担となります。もしも自然環境がこのような状態になってしまったら、どうなってしまおうのでしょうか。

自然環境で先ほど述べたような状態になってしまおうと、雨が降れば、雨が降った分だけ川に水が流れ込むようになります。そして川にも容量があります。つまり川の容量を超えるほどの雨が降った場合、洪水が発生してしまいます。また、雨が全く降らないと、川に流れ込む水はなく、逆に川の水はどんどん海に流れていってしまうため、いつか川が干上がってしまいます。

最近の日本でも、二〇二三年の秋田県の大雨による洪水や二〇二二年の東北・北陸地方の線状降水帯による洪水など、よく洪水が起こっています。けれども、同時にナイジェリアやエチオピア、ソマリアなどの世界の様々な地域では、干ばつによって頭を悩ませられている人もいます。

しかしそのような事態が多発しないために、自然の制御装置である森があります。ところが私たちは、その大事な森を大切にするどころか、どんどん伐採して、森を失っていています。

森をこれ以上失わないためにも伐採しないことに決め、全く人の手を加えないようにしてしまうことも、かえって悪循環を生む原因となってしまいます。

なぜなら、手入れがされていけない水道の元栓は時間とともに錆びていき、動かさずらくなっていきます。そして本来の機能が失われていきます。それは森も同じで、森も時間とともに錆びていってしまいます。だから森には、ときに伐採したり、木を植えたりするなどの正しい手入れが必要です。

森を正しく手入れしていくと、より多くの水を蓄え、「緑のダム」としての役割だけでなく、より多くの二酸化炭素を吸収してくれるため、地球温暖化を抑え、気候変動による水の問題を減らす役割を果たします。

このように森と水、そして私たちはだれかが欠けたら生きていくことのできない、切っても切り離せない必要不可欠な存在同士なのです。だから、今の私たちに求められていることは、森と水と私たちが互いに手を取り合って、助け合いながら、うまく歩んでいくことなのです。

水道水と働く人々

横浜市立篠原中学校

三年 丘山 麻亜子

日本で水道水を飲むことができるのはなぜか、考えたことがあるだろうか。私達は毎日、お風呂に入るとき、手を洗うとき、歯を磨くときなど、たくさん水道水を使っている。しかし私はある出来事をきっかけに、安全な水道水を使えることが当たり前ではないことを知った。中学二年生の夏、海外で泊まった寮では水道水が汚く、顔や手も洗えなければ、歯を磨くことさえ難しかった。出てくる水は茶色く、蛇口は錆びていて、日本で水を使う私にとっては受け入れがたい出来事だった。そのとき私は、日本で水道水を飲めることが、世界では当たり前ではないことなのだ実感することができた。このことをきっかけに、なぜ日本の水はあんなにも透き通っていて綺麗なのだろうか疑問を持った。

調べてみると、日本ではいくつもの工程を重ねることで透き通った綺麗な水道水を作っていることがわかった。例えば安全な水道水を作るのに欠かせない施設である浄水場では、水を消毒したりろ過させたりすることで安全な水を作る役割を担っている。また、配水池という施設では、浄水場で作られた水を貯めて、適切な水圧で各家庭に送る役割を持っている。このように、たくさんの方々の協力によって、安全な水道水が作られているのだ。

では水道業で働く人々はどんなことをし、どんな課題を抱えているのだろうか。今思うと、私は一切水道業に関する仕事に触れたことがなかった。触れたことがなかったからこそ、調べた結果に本当に驚いた。水道業で働く人々は、水道管の設置や修理、水道施設のメンテナンスなどを行っている。これらの仕事は身体の負担も大きく、夜間対応をすることもあるそうだ。更に水道業界では人材不足や設備の老朽化などの課題も抱えている。これを知って、課題を抱えながらも一生懸命働いてくださっている方々に対し、感謝の気持ちでいっぱいになった。そして私達にできることがあれば協力していきたいと強く感じた。

一つ目にできることとしては国全体との協力だ。例えば専門学校や大学との連携をより一層強化し、人材不足を解消すること、高性能な水道管の導入により、漏水や破損を防ぐこと、などが挙げられる。しかし、これらは簡単に実行できることではない。

そこで、二つ目にできることは、節水や水質保全だ。

みなさんはお母さんや先生に「手を洗うときはこまめに水を止めなさい。」と言われたことはないだろうか。この、「こまめに水を止める」ということも節水の一つだ。他にも、食器や野菜を洗うときはため水をする、お風呂の残り湯を洗濯に使う、洗剤は環境に優しい「オーガニック洗剤」を使う、などのことができる。水道水を作るときには、川の水や家庭で捨てた水が使われる。だからこそ節水や水質保全を心がけることは重要なことなのだ。

最後に三つ目にできることは、水道業について興味を持ち、そこで働く人々に感謝の気持ちを持つことだ。多くの人は安全な水道水を使えることが当たり前になっている。しかし、安全な水を飲んでいるのは、そこで働く人々が私達の生活を支えてくれているからだ。今、これを読んでいるあなたにも水道水を使えることのありがた

さを感じてほしい。そして安全できれいな水を使えることは幸せなことなのだ、心に止めながら過ごしてほしい。

私達ができることは少しずつ進めていこう！

水を変えるもの

横浜市立篠原中学校

三年 白鳥 修一朗

今まで色々な水を見てきましたが、それぞれの水には違いがあり、個性がありました。きれいな水、汚い水、魚が泳いでいるか、いないか等様々でした。では、なぜ同じ地球上の水なのに違いがあるのでしょうか。この疑問を抱いたのはある体験がきっかけでした。

中学二年生の5月頃家族と四国旅行に行きました。この旅行での一番の目的は愛媛県でのサイクリングでした。四国では本州と四国を結ぶ橋でサイクリングを行うことができますのです。自転車を借り、ワクワクいっぱい自転車を力強く漕ぎ始めました。橋からは雄大な瀬戸内海と島々が広がっていました。波はなく静かで、深い碧色の海を見て、「夢みたい」

と気が付いたら口に出してしまいました。また、瀬戸内海は底が見えるくらい透き通っていました。旅行から帰っても、きれいな海のこと忘れられず家族とはサイクリングが楽しかったという話題がしばらく続きました。後日、いつも通り習い事に行きました。行く道の途中には、川が流れています。その川は緑色で濁っており、あまりきれいではありません。その時、旅行で見た水を思い出して疑問に思いました。同じ地球上の水なのに、なぜきれいな水や汚い水があるのか、汚い水には原因があるのかと。

川の水が汚くなる原因には、工場からの産業排水や風呂・トイレなどの日常生活から出る生活排水があります。かつては産業排水が主な原因でしたが、工場に対する規制がされて現在では生活排水が大きな原因となっています。つまり、私達が水を汚す原因になっているのです。では、水を汚さないようにするにはどうしたら良いのでしょうか。それは、とても身近なことを意識するだけで変わるのです。例えば、食器についた油污れなどはキッチンペーパーで拭き取ってから洗うようにしたり、調理くずを土地に還元して肥料にしたり、米のとぎ汁を食

器洗いに使うなどがあります。また、味噌汁や牛乳は、まず食べ切ること、でも捨てざるをえない場合はそのまま流さずに、吸収材や新聞紙に吸わせることも水を汚さないことに繋がります。牛乳コップ一杯分を海や川に流した場合、元の水質に戻すにはなんと浴槽一六杯分の水が必要です。個人が意識を変えることにより、街の川の色も変わるかもしれないのです。

皆さんはきれいな水が流れる街と、汚い水が流れる街のどちらに住みたいですか。もし、きれいな水が流れる街に住みたければ私達が変わらなくてはなりません。水は水自身で変わることはできません。水を変えるのは私達なのです。

水って何色？

横浜市立篠原中学校

三年 矢部 宮瑚

みなさんが当たり前のように目にしている、口にして
いるその水は何色だろうか。きっと多くの人が透明、青
などと答えるだろう。しかしそう答えられるのも世界的
に見るとあと二十年前後だと言われている。これは大変
な問題だ。私がこの問題について考えるようになったの
はある四年前の出来事がきっかけだ。

四年前、私はアフリカに住む六歳の少女と手紙でやり
とりをしていた。その少女の住む国、ギニアでは水質汚
染が大きな問題となっていた。実際にそんなギニアの水
問題について気になった私は、インターネットで調べて
みた。するとギニアの水質汚染の原因のほとんどがゴミ
問題とつながっているということが分かった。ギニアや
アフリカの多くの国ではゴミを処理する施設が整備され

ていないことから川や海にそのままゴミを流すそうだ。
その影響で海や湾に面している、ギニアの水はきれいな
青色ではなく茶色だそう。さらにギニアではその茶色
くなった水を、自分の命のため飲まなければならぬの
だ。そんなギニアは現在でも茶色くなった水を飲み続け
ている。そのためギニア内でも年間約二千人の人が汚
い水を飲み、命を落としているのだ。私ははじめ、この
問題に対して「自分にできることはないから、自分には
関係ないから。」と思い他人事にしてしまった。しかし
今考えると、二千人もの人の命が奪われていることを他
人事だと思うのは間違いだ。二年前アフリカの海から、
日本のプラスチックゴミが見つかったことがニュースに
なっていた。私はこのニュースを見て、あのときのこと
を本当に後悔した。「もしかしたら、私達日本人が他の
国の人々の命を奪ってしまっていたのかもしれない。」
と。

世界中できれいで美しい水、水環境を保っていくため
には、ひとり一人の心がけがとても大切だ。例えば海や
川にゴミを捨てないようにしたり、節水を心がけて行動
してみるの、どうだろうか。日本は世界とつながって

いる。だから、日本に住む私達も世界の水問題を他人事にするのではなく、水問題について考え行動していくことが大切なのだ。もしも私達が水問題を他人事にし続けていたら、今の日本にあふれているきれいな川、水でさえも誰にも知られずに忘れられてしまうのかもしれない。そうならないためにも、まずは水についてよく考えてみよう。そしてここでもう一度考えてみてほしい。あなたの身の周りにある水は何色か。世界にあふれている水は全て、きれいな色なのか。

森と水の大切さ

横浜市立篠原中学校

三年 田邊 和奏

森は海の恋人という言葉を知っていますか。これは豊かな海や川には豊かな森が必要ということです。世界中で毎年失われる天然林の面積は約十平方キロメートル。これは東京都と同じ大きさの森が今も一週間ごとに失われ続けているということです。では、私たちはどう過ごしたらいいのでしょうか。

私は去年、森の中の旅館へ家族で旅行に出かけました。その旅館では森から流れてくる温泉に入ることができ、その温泉で洗った髪は普段とは違い指通りが良くまとまり、潤いがでた気がしました。また、森から流れてきた水を飲むこともでき、その水はとても冷めたく余計なものも一切入っていないのだと感じることができました。森は、一見、土や木で、そんなに綺麗そうには見えないの

で、どうしてもここまで透き通った綺麗な水を作り出すことができないのか疑問に思いました。調べてみると森のカフカな土の中に水がしみこみ、じっくりとろ過され何層にも重なっている地層がフィルターのよう働いて汚れを取り除くのです。綺麗な地下水となり、その一部は湧き水となって流れ、再び地上に出てくるそうです。つまり森は綺麗な水を生み出す大きな役割を果たしているのです。

水を守るには深い関わりがある森を守っていく必要があります。ですが、私たちは林業技士でもなければ、水道局で働いているわけでもありません。直接的に森や水を守ることはできないかもしれませんが、しかし私たちにできることがあるはずで、ボランティアに参加する、募金をするなどで森や水を守ることもできますが、私たち子どもからしたら難しいことです。そこで、私にもできることはないかと考えたところ、普段の意識が大事だと思いました。例えば、お風呂のシャワーを使うときに水を出しっぱなしにしない、紙袋などの必要のない包装を断るなどがあります。私の場合、漫画や小説などを読むときに電子書籍を使って読むことなどを心がけるよう

にしています。このような一人一人の意識が、森林破壊や水を守ることに繋がります。私はこれから森や水の大切さを忘れずに過ごしていきたいです。

使命

横浜市立篠原中学校

三年 松本 芽

私たちの生活に欠かせない「水」。それは自然が与えてくれた、私たちの体に直接必要不可欠な資源です。日々の生活で何気なく使っている水が、いかに貴重かを再認識することは、今の時代において非常に重要なことです。

水は私たちの体の約60%を占めています。デリケートでありながら、目に見えない部分で私たちの健康を支えています。毎日飲む水、料理に使う水、そして清掃に使う水。私たちの日常生活は水なしには成り立ちません。つまり、水の存在は私たちが思う以上に身近で大切なのです。

私は、小学校から中学校までの夏休みに様々な国に行きました。そこで驚いたのが世界では水道インフラが整

っていないということです。例えば水を飲むときやシャワーのときでも日本のように勢いが出なくて満足に体を洗えなかったり、水を飲むときは飲料水を別に買ったたりする必要がありました。

世界には水が不足している地域が多く存在します。そうした地域では、人々は清潔な水を手に入れることができず、飲み水の確保に苦労しています。この現実を知ると、日本では、整った水道インフラが整備されていることがどんなに恵まれていることがわかります。私たちは清潔な水を直接手に取ることができません。この恵まれた環境を、当たり前だと思ってしまうよう、他の国までを見通す広い視野を持ち続けることが大切です。

また、水を適切に管理することは、環境問題とも密接に関わっています。私たちの消費行動が、水資源に与える影響を考えることが必要です。無駄な水の使用を減らし、再利用可能な水を大切にすることを、将来にわたって水を守るための大きな一歩になります。水道局の取り組みも、この意識を高めるためには欠かせない重要な役割を果たしています。

私は、この作文の内容について調べていくうちに、水

の重要性を再認識し、自らの生活の中で意識的に水を使おうと思いました。水を大切にするのは、自分だけでなく、未来の世代へと繋がる大切な責任です。水は、ただの液体ではなく、私たちの命と深い関わりがあります。これからも水の恩恵を感じながら、資源としての水を大切にしていきたいと思いました。

水の大切さを理解し、より良い未来を築いていくために、私たちは何ができるのかを共に考えていくことが大切です。水は決して私たちのものだけではありません。未来のために、水をきれいに保つことが、私たちの役目なのです。

山の水を守る理由

横浜市立篠原中学校

三年 三島 千知

山の水は守らなければいけない。僕がそう思うのには理由がある。僕の祖父母は長野県に住んでいる。祖父は本業ではないが畑を借りて野菜を育てていて、帰省すると夕食に祖父が育てた野菜がでてくる。長野に行くときその畑に行く。田んぼもあってとても広い。僕は生き物が好きなので、長野に行くとよくその畑に生き物を観察しに行く。そこでは、いろいろな生き物を見ることが出来る。生き物は季節ごとに田んぼや畑と一緒に姿を変えていく。カエルやトンボ、トカゲなどさまざまな生き物がいて、見ているだけで楽しい。そこでは山から水をひいて野菜を育てているそうだ。つまり、山のきれいな水がないと生き物や野菜たちは生きていけないのだ。生き物や野菜を守るためには山のきれいな水を守って

いかなくはない。では山の水を守るためにできることは何だろうか。まず、山は水資源を供給するだけでなく、洪水の緩和や水質の浄化など、いろんな水に関わる機能を持っている。つまり、山の水を守ることは必然的に水源地である山も守ることになる。それらを守るには間伐などの森林管理をしっかりする、森林へのゴミの不法投棄を防ぐ、森林火災などの自然災害を防ぐなどがある。これらを行うことによって森林の健康を維持し、水循環を正常に保ち、森林環境を汚染させないなど、森林を保護することが出来る。次に節水。山の水を守ることもができてそれを無駄に使っては元も子もない。僕はいつもシャワーを浴びるとき、歯を磨くとき、手を洗うときなど、無駄に使ってしまった。今回この作文を書くにあたって節水を心がけていきたい。水は循環するので川や池などを汚さないということも大切だ。夏に長野に行くと、よく山へキャンプに行き、キャンプ場の炊事場で食器洗いなどをやる。山を、汚い水で汚さないため、洗剤を使わないように心がけていきたい。山の水がなくなったら農業用水や飲料水の不足、生活用水の制限、川や池の生態系への影響、治水機能の低下で水害や洪水

のリスクが高まるなど、多大な影響がおきる。

このように山の水を守ることで、沢山の人々の生活や、生態系、畑や田んぼなどを守ることができる。僕たちの生活を守るためにも、山の水は守らなくてはいけないものなのだ。

第47回「全日本中学生水の作文コンクール」
神奈川県優秀作文集

発行 : 令和7年7月
発行元 : 神奈川県政策局政策部土地水資源対策課水政室
電話 (045)285-0049(直通)



神奈川県

政策局政策部土地水資源対策課水政室 水政グループ
横浜市中区日本大通1 丁目231-8588 電話(045)285-0049 (直通)